DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止
時雨
総集編

目次

小話(描き下ろし)　3 / 59 / 127

睦言・壱　6

睦言・弐　36

睦言・参　66

睦言・肆　96

幻想郷に来て
随分と経ちました

そうか…

お前が
幻想郷に来てから
もうそんなに経つのか……

そうねぇ……

何か
お祝いでもした方が
いいかしら？

おっぱい揉みながら世間話ができるこの状況が素敵なので大丈夫ですよ

あら？それでいいの？もっと欲張ってもいいのに

今でも十分すぎるほどです

私の方がお返ししたいぐらい

そう？それじゃあ……

身体をさらに密着させ顔を寄せてきた紫の唇に軽くキスをする

ちゅ

それを見た藍の顔が一瞬だけ羨ましそうに動いたので

ちゅっ

ちゅっ

藍も抱き寄せキスを落としてやると少々照れながらも満足そうな笑顔になった

そうだ紫様

何でもお願い聞いてあげるってのはどうでしょう

イチャ

ポン

ポン

イチャ

イチャ

もぎゅ♥

もちろんえっちなことでもなんでも――

イチャ

睦言

ムツミゴトー

前から思っていたのですが
?
あの月は私の居た世界と同じものなんでしょうか
……
そうだよ
――
……なぁ

やっぱり外の世界が恋しいか？
……そういうつもりで言ったわけでは
……そうか
ハッ
――私はな
あの月が憎いよ

あの月さえなければ――

お前を縛り付けるものはないのにな

今も

ミシ

これからも

あなたたちしか見えてませんから

……

ありがとう

んっ……

軽めのキスを交わしながら藍を縁側に押し倒す

藍の方は期待していたのか少しばかり敏感になっているようだ

ハーッ

ツプ…

ハーッ

ムニ…

ムニ…

ビクッ

そのまま藍の身体を優しく愛撫し始める

スッ
スッ
ボロン
スルッ
スス…
ふっ
チュッ
チュッ
トン
ピクッ
モミ
モミ
しゅっ
しゅっ…
藍の方も負けじと
私の愚息を
いじってくる
この絶妙に
加減してくるのが
とても心地よい
これだけでつい
達してしまいそうに
なるが我慢ガマン

藍の身体を起こし、後ろから法衣と前掛けの隙間に手を入れ、その豊かな双丘を思う存分揉みしだいて楽しむ

ピクッ

シアッ

ハッ

フーッ♥

フーッ♥

ムニ♥

ムニ♥

この体勢は尻尾も含む色々な柔らかさを味わえるからお気に入りだ

キュッ♥

チュッ♥

ギュッ♥

……ダメ

スス…

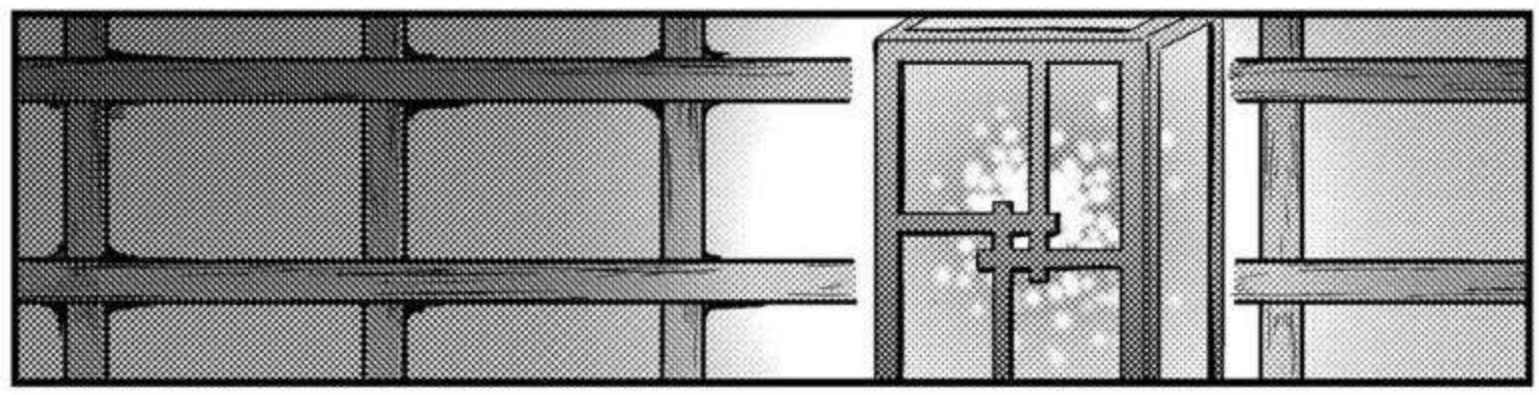
ムニ♥

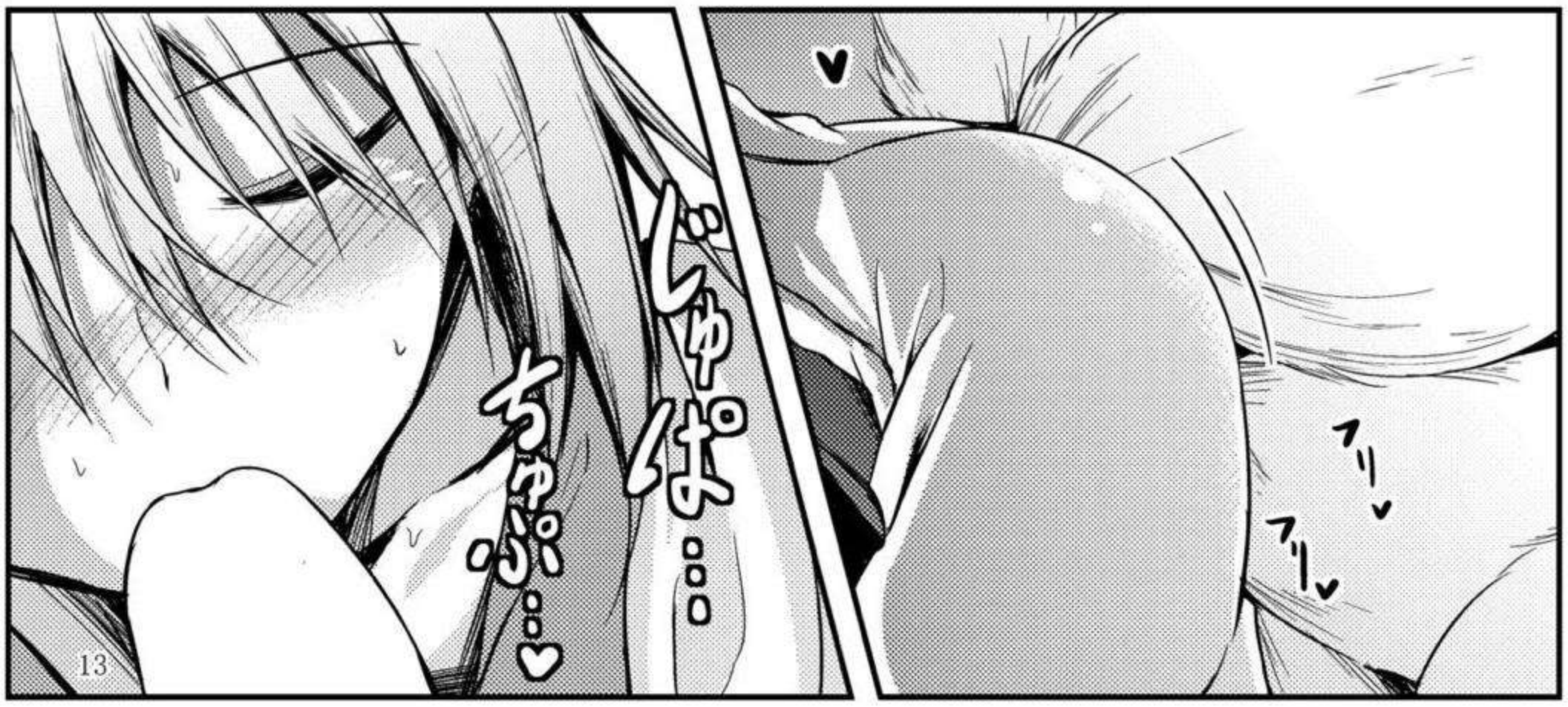
スッ…

続きはお布団で

……ね？

[redacted]





ピクッ♥

フーッ♥

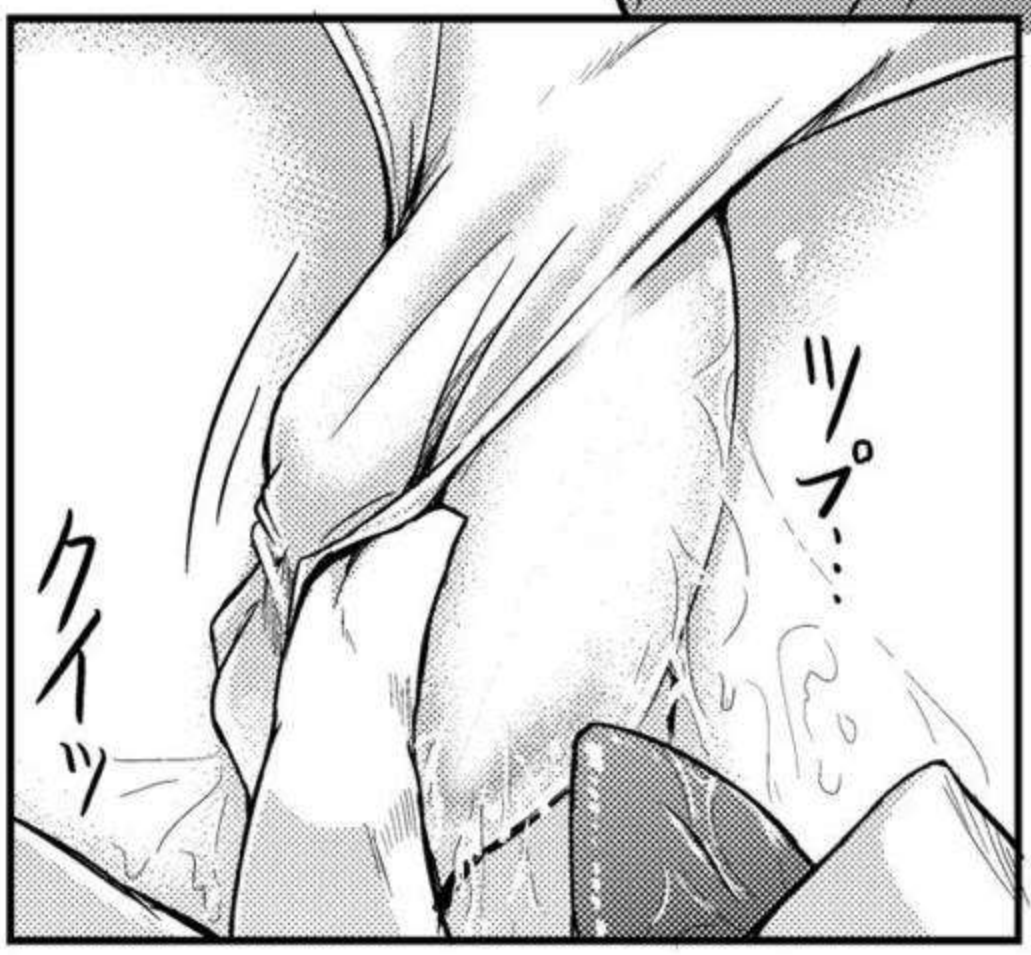
ンッ♥

二つ巴の体勢になると
藍は何も言わずとも
私は愚息を
口での奉仕し始める

舌を使ったり
根本まで咥え込んだり
存分に愚息を弄ばれる

ズッ♥

チュッ♥



藍の秘裂に
舌を伸ばすと
ピクピクと身体全体を
可愛く反応させる

チュブッ♥

チュッ♥

ムニュ♥

ポヨン

ムニュ♥

ズチュ♥

温かい感触が
愚息を包み込んだ

柔らかな胸と舌で
刺激され
一気に射精感が
襲いかかってくる

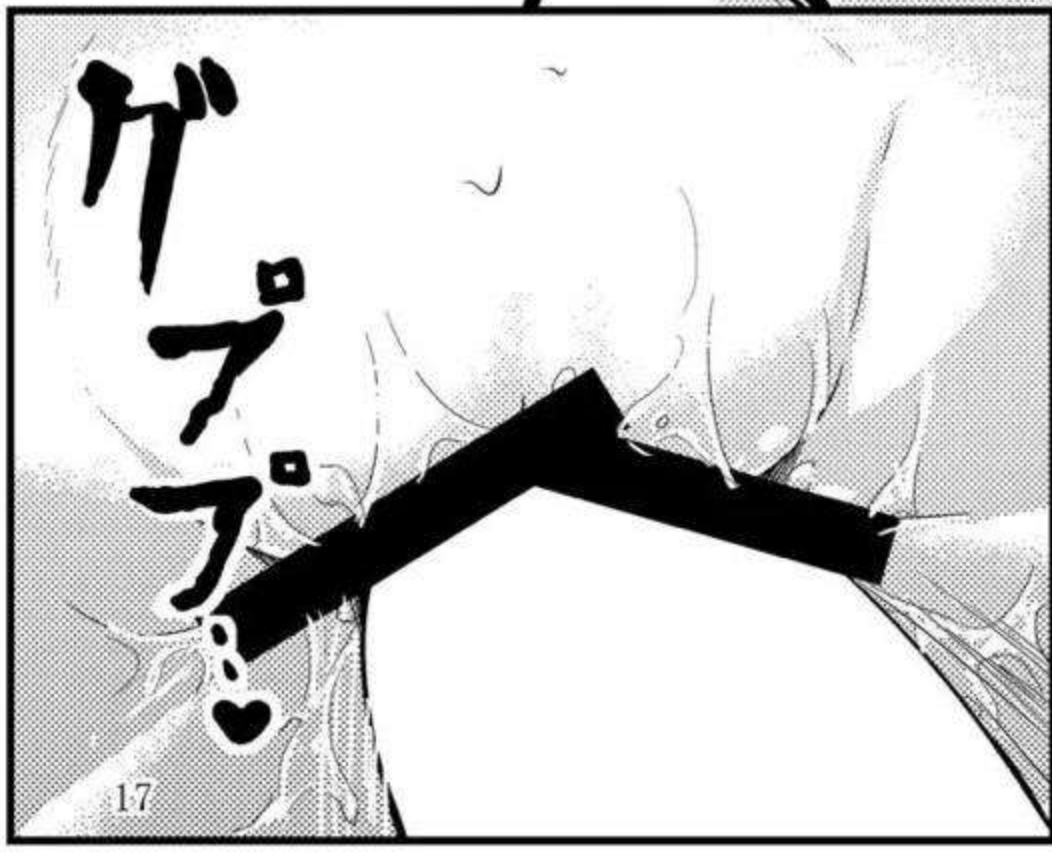
ドクンッ♥
たまらず藍の口内へと精駅を吐き出した
ゲホッ…
……ん…おいし
ペロ♥
キュン♥
キュン♥
コクン♥

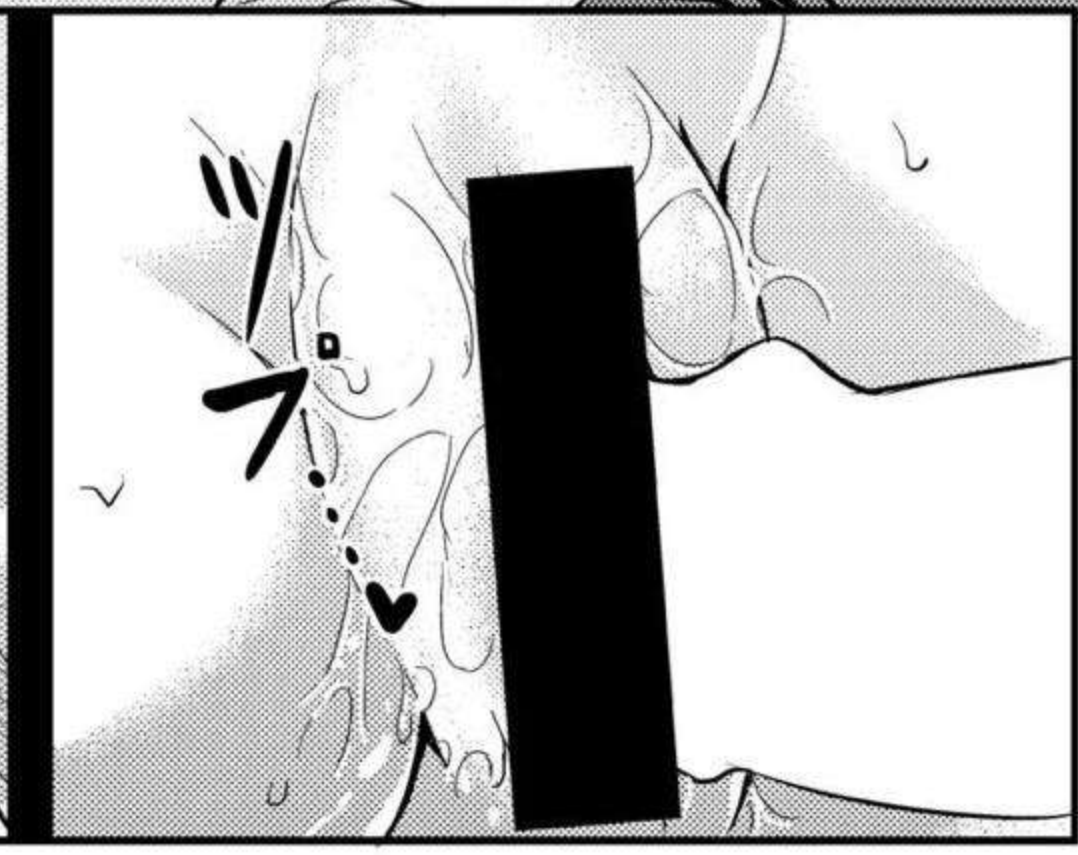
ふふ…よしよし甘えん坊だな♥

ナデナデ♥

おっぱいもいいけどそろそろ……ね？

……それではお言葉に甘えて





亀頭を何度かこすりつけたのち藍に挿入する

ビクッ

ズブブブ

半分ほど挿れた所で体がビクッと跳ねる

挿れただけで少し達してしまったようだ

ビクッ♥

ビクッ♥

ビクッ♥

ビクッ♥

入っ…♥

動きますよ

藍の返事を待たず好きなように抽挿を繰り返す

ズッ♥

ズッ♥

ズッ♥

ズッ♥

ズッ♥

ズッ♥

ズチュッ♥

ズッ♥

ビクッ♥

ひゃ♥

あっ♥

腰を打ち付ける度身体を跳ねさせ楽しませてくれる

抱え起こした藍に自分で動くよう促す

キュッ♥

ズッ♥

ソッ♥

ハッ♥

ピクッ♥

ズッ♥

アッ♥

ズッチュ♥

藍が動く度に嬌声と水音が漏れ心地いい音が響く

キュッ♥

ピクッ♥

フーッ♥

フーッ♥

グイッ

ボソ…

愛してますよ

ゾクッ♥

ゾクッ♥

キュンッ♥

キュンッ♥

ビクッ♥

ビクッ♥

[redacted]

ビクッ♥

ビクッ♥

ギュウウ…♥

耳元で小さく愛を囁くと
膣内がキュッと蠢き
身体がビクンと反応する

私が愛する彼女たちは
この言葉が大好きだ

彼女の息が
荒くなってきた

ハッ♥

ハッ♥

ズッ♥

ズッ♥

ズッ♥

それに合わせ
抽挿を段々と速くする

ゾクッ♥

ゾクッ♥

ゾクッ♥

藍の絶頂に合わせ精を膣内へ注ぎ込む

キュンッ♥

ドクッ

ドクッ

一際大きく藍の身体が跳ね

やがて力尽きたように撓垂れ掛かる

ハァ

クチュ…♥

チュ…♥

ピクッ♥

フリ♥ フリ♥

…♥

ハァ…♥

ピクッ♥

ピクッ♥

ピクッ♥

ハァ…♥

…♥

ピクッ♥

…♥

ピクッ♥

ピクッ♥

…♥

ピクッ♥

ガラ ガラ
コラー
ひあっ!?
ドキ
んー? 今なにしてたー?
ほら言ってみー?
ギュー
えと、あの
いえその…

……慰めてたんだろう?
スス…♥
ひあっ!
ムニ♥
ピクン
私達の情事をオカズに

ツプ…♥
クイッ
グチュ♥
グチュ♥
こうやってされたかったんだろう?
ビクンビクン♥
…ッ♥

まったく……仕方のない奴だ

ナデナデ

それなら

ポイッ

ひゃっ

お掃除してあげなさい

ほら

ドキッ♥

ドキ♥

ドキ♥

ドキ♥

ペロ…♥

チュプ…♥
あむ♥
チュパ…♥
むぅ♥
ジュル…♥
ジュププ…♥
フッ♥
フリ
フリ♥
じゅん…♥
……よし
綺麗になったな
それじゃあ……
ツゥ…
やっ♥
ビクッ♥
ひぅ……
次はご褒美を
あげないとな
キュッ♥
キュッ♥
くぱ
あ♥

ドキドキ♥

ドキドキ♥

ドキドキ♥

ズブッ♥

ズブッ♥

グッ

ビクッ♥

アンッ♥

ヤッ♥

ビクッ♥

橙の身体を回転させ
細い足腰を掴み
幼い膣内を好き勝手に
味わい続ける

ピクッ♥

ビクッ

グッ♥

パンッ♥

パンッ♥

パンッ♥

キュン♥

キュ♥

フーッ♥

フーッ♥

ギリ…

橙の方もだいぶ
高まって来たようで

シーツを噛んで
声を押し殺してる

そんな健気な姿が
とても可愛いらしい

ドクッ♥

ドクッ♥

ドクッ♥

ドクッ♥

そのまま覆い被さり
橙の膣内に容赦なく
精子を叩き込む

ピクッ♥

ゴポ♥

ヒクッ♥

ヒクッ♥

ピクッ♥

フーッ♥

フーッ♥

ピクッ♥

……やれやれ

ヒクッ♥

トロ♥

トロ♥

主の情事を盗み見るとは

一体誰に似たのやら

ナデ

ナデ♥

ハッ♥

ハッ♥

そんなの貴女に決まってるでしょう

紫様……

ツィ…♥

あ

ムーン♥

イチャ♥

イチャ♥

ニコ♥

私も情事を盗み見るような式にお仕置きしてもいいのかしらねぇ？

ご、ご勘弁を……

ふふ、貴女は
そこで見てなさいな

私にも
してくれるわよね？

ムニ♥

ここまでして

ムギュッ

私だけ
見てくれない
なんて嫌よ？

ん……

服を脱いだ紫に
乗りかかられ
そのまま騎乗位の体勢で繋がる
紫の温かい膣内は
既に十分に濡れていた

ズプッ♥

ピクッ♥

ビクッ♥

紫が動く度
前掛けの衣擦れと
蜜音が部屋に響く

クチュ…♥

グチュ…♥

ズプッ♥

ズッ♥

ビクッ

ビクンッ

ピクッ

ピクッ

下から軽く
突いてやると
可愛らしい表情と
反応を見せてくれた

もう…

よしよし♥

ホントにおっぱい好きなんだから……

ポフッ

じゅる…♥

おっぱいが嫌いな男の子なんていません

そのまま紫を抱きしめ
耳元で愛を囁く
紫は私を抱きしめ返しながら
ビクビクと身体を震わせていた

んっ♥

ふっ♥

そんな彼女の膣内に
欲望を吐き出す為
激しく腰を打ち付ける

じゅぷっ♥

ずっ♥

ずんっ♥

紫の身体が一際大きく跳ねると同時に彼女の膣内がキュッと締まる

ビクッ

ドクッ

キュッ

キュッ

それに合わせるかのように紫の膣内へ精液が流れ込んでいく

フッ

ハッ

ちゅ

じゅる…

キュッ

ねぇ……

もっと、見て？

私達だけを、見て？

……あれ？

幽々子様

何かしら？

いえ……

今日は……

新月でしたっけ……

……さぁ

どうだったかしら、ね

もしかしたら

？

なくなっちゃったの
かもね、お月様

睦言・弐

ームツミゴトー

♪

ギューッ♥

ストン
ストン

どうしました
藍様？

そうですか

どうぞ
満たされるまで

そこは
抱きしめ返す
ところだろうに

……まぁいいさ

ほら お前も会えなくて寂しかっただろ？

……まぁ、多少は

クスクス

なんなら今日はいっぱい甘えていいんだぞ？

スッ

……その分私もいっぱい甘えさせてもらおうか

……では お言葉に甘えて

抱きついてくる藍を膝の上に乗せ情交前のキスを落とす

チュッ

んっ♥

んむっ♥

チュッ♥

グイグイ♥

一番密着できる体勢を探しているのかぐいぐいと豊満な身体を押し付けてくる

チュッ♥

んっ♥

ムニュ♥

キスをせがんでくる藍の豊かな双丘に手を伸ばし服の上から秘所を愛撫する

ムニュ♥

んっ♥

はっ♥

ストッ♥

秘所周りはすでにほんのり湿っており軽く刺激する度切なそうな声を漏らしてくれた

ん…♥

藍も負けじと
私を求め
キスをせがんでくる

キュッ♥♥

それに
応えようと
すると――

ドサッ

おっと

……ほら
私ばかり
じゃなくて……

お前も
甘えていいんだぞ？

藍に身体を委ねると
まるで赤子に
授乳するような
体勢を取らされる

ドキドキ

ちゅぱ

ナデナデ

ちゅう

ボロン

胸を顔に押し付けると
同時に愚息を
藍の手で露わにされた

ぎゅる…

ヒクッ

思うままに
乳首に吸いつくと
藍の手も愚息を
優しく弄ってくる

ヒクン

しゅっ

しゅっ

ヒクン

ぢゅう

屈辱的ではあるが
実に背徳的であり――

己の体裁など気に留めず
一心不乱に藍の乳を
欲望のまま吸い上げる

ぢゅう

ぢゅう

ぴくッ

ん っ

結果――

ドクン

ビュルッ♥

ビュルッ♥

チュウ…♥

ん…♥

ペロ♪

ひどく情けない
絶頂を迎えてしまう

よしよし

ナデナデ♥

いっぱい
出せたなー

えらいぞー

ただ、頭の奥の奥まで
甘い香りに支配されて

うまく頭が働かない
この感覚が
とても心地よく
感じてしまう

藍を縁側に横たわらせ、濡れた秘裂に挿入する

あっ♥

んっ♥

ピクッ♥

キュンッ♥

藍の膣内は溶けるように熱くなっており愚息をきつく締めあげてくる

膣内をじっくり味わうようにゆっくり抽送していると

ハーッ♥

ハーッ♥

なかなかに
可愛らしい表情を
見せてくれるので

チュッ♥

レロ…♥

それに応えるべく

貪るように口内を犯し
柔らかい胸の感触を
楽しみつつ
腰を激しく打ち付け始める

チュッ♥

ハッ♥

クチュ♥

ズブッ♥

ズチュ♥

キュッ♥

ズブッ♥

漏れる嬌声を
存分に味わうと

あっ♥

やっ♥

膣内がキュンと締まり
ピクピクと震え始める

ピク

キュン♥

キュン♥

藍の身体がビクンと
大きく波打つ瞬間

ビクッ♥

ビクッ♥

ビクッ♥

ドプッ♥

ドプッ♥

ドクドクッ♥

その絶頂すら
許さないかのように
腰を強く押し付け
精子を膣内へ注ぎ込んだ

ハーッ♥

ハーッ♥

んっ♥

――そういえば
お前の方は別にご無沙汰ではなかったそうじゃあないか？
ナデ…
……アハハ なんのことやら
……橙をいじめてたのもお見通しだからなー？
いじめてはないです
……お仕置きはしましたが

ドキドキ
ハーッ♥
ハーッ♥
ドキドキ

まー橙にも言ってあるから大丈夫だとは思うけどな

すっかり忘れてたが藍様が言ってたってことは……

……わざとか

フーッ

フーッ

わざと連れ込んだのか

ちゅぱ♥

ちゅぷ♥

れろ♥

ほら橙口開けて

グッ

んあ……

それなら話は別である

橙の頭を掴み
愚息を咥えさせ
腰を揺り動かす

んっ♥

グッ…

チュプ。♥

チュ

小さな口いっぱいに
愚息を押し付け
喉まで犯すように
抽送を始める

そのまま橙の頭を
力強く押さえつけ

ガシッ

ゴクッ♥
ゴッ♥

愚息を根本まで
咥えさせると
食道に直接
精液を流し込んでやる

流石に苦しい
はずだろうが――

コプ…♥

ハーッ♥
ハーッ♥

ドロォ…

口から精液を
だらしなくこぼす
橙の顔は
とても恍惚としていた

しゅる…♡

リップ…♡

木に手をつかせ
下着を下ろした
橙の幼い秘裂に後ろから
愚息を押し入れる

ズプ…♡

橙の膣内は
待ちきれなかったと
言わんばかりに
愚息をきつく締めあげてきた

ズッ♡

ズッ♡

そのまま細い腰を
鷲掴みにし
好き勝手に
幼い膣内を蹂躙する

パン♡

パン♡

パン♡

ん♡

ん♡

後ろから犯されていても橙の表情は恍惚としたままで

あっ♥

はっ♥

このような変態的なことに興奮すら覚えているようだった

キュン♥

ズズッ♥

ズチュッ♥

膣肉が蠢き絶頂が近いことを悟るとこちらもそれに合わせて射精するべく

ピクッ♥

あっ♥

やっ♥

パーン♥

パーン♥

橙を抱え上げ腰の動きを速めて刺激を貪る

愚息がキュッと
締まる感覚と共に
ひときわ大きく
橙の身体が波打った

ビクッ

ドクン

同時に精液が
小さい膣内いっぱいに
注ぎ込まれる

ビクッ

ん…♡

はぁ…♡

犯されていたはずの
橙の顔は最後まで
恍惚としたままだった

堪能した後は
そのまま橙の口で
愚息を掃除してもらう

チュプ♥

ジュプ♥

あ、あの……
お兄さん

ん？

ぶあっ♥

えっと……
今度はもっと……

モミ
モミ♥

激しく
抱いてくれると……
その……

……

ギュッ♥

別の形での
お仕置きを考えた方が
よさそうだ

まったく……
あれだけ式達を抱いて
まだ元気なんだから

ズッ♥

ズチュッ♥

ズチュ♥

柔らかい胸で
絶頂後の敏感な愚息を
心地よく刺激される

既に何度目かの射精で
紫の綺麗な顔や豊かな胸は
白く染め上げられていた

ズチュ♥

ズリュ♥

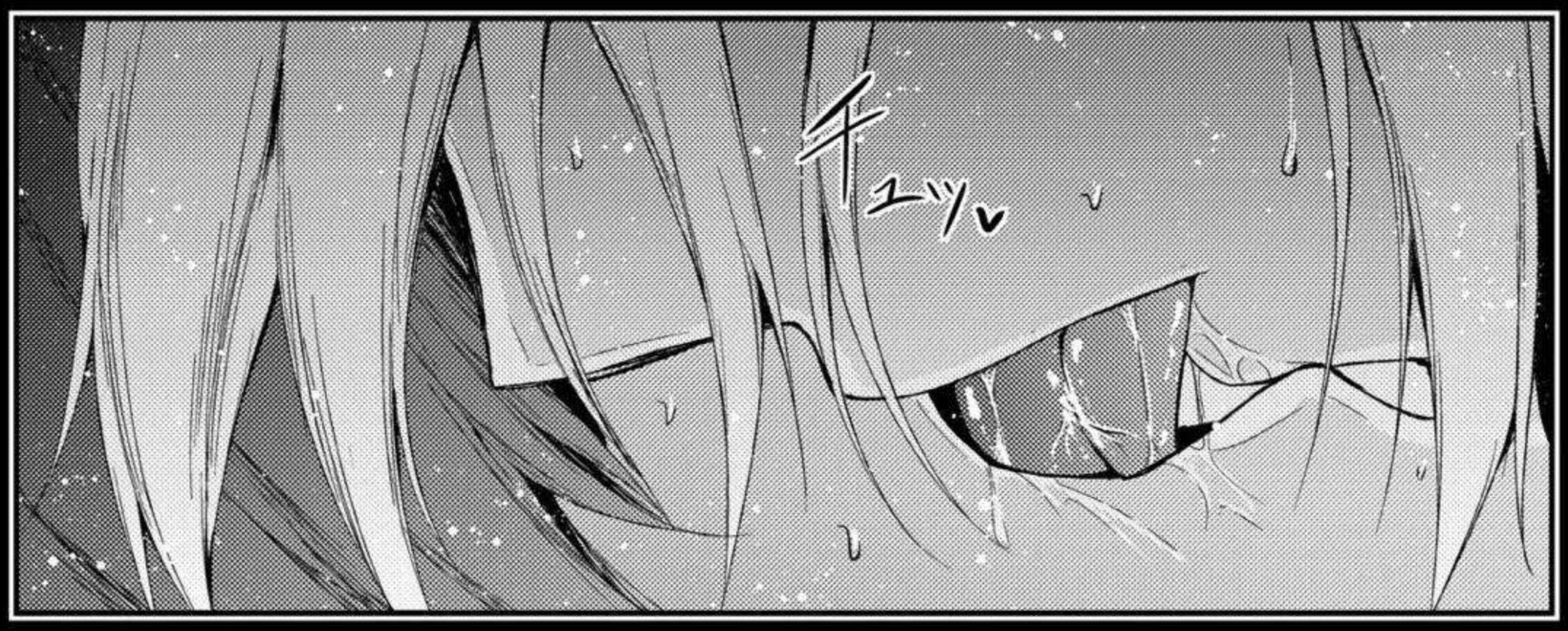
ズリュ♥

愚息の先を
自らの秘所へと導き
先端を咥える

一旦開放されると
紫はそのまま
体に跨がってきて

一気に
腰が下ろされると
同時に紫の身体が
ビクンと跳ねて倒れこむ

軽く達したようだが
それでも紫の膣内は
貪るように
愚息を締めあげてくる



愛して欲しいなら
愛してあげる

愛したいなら
愛されてあげる

もっともっと
愛しあいましょ？

彼女と私だけの世界と、
彼女と私しかいない世界は、違う。

ねる
日差しの暖かさを浴びながら午睡に勤しんでいると
ちゅぷっ
股間の暖かな感触と重み
僅かな嬌声で脳が覚醒する
きゅん
ちゅぷっ

……今日はまた積極的だね

あぅ……

紫様から…今日は特別だって聞いて……

また変なことを吹き込まれたようで

ガクッ

ハッ

ぬぷぷぷ…

ちゅぷ

きゅん

ピクッ
ヒク
ツプ…
カク
せっかくなので幼い子が稚拙ながらも一生懸命自分の上で腰を振る姿を堪能したり
急にこちらから突き上げて快楽の嬌声が口の端から漏れるのを楽しんでみたり
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ

しばし奉仕に身を任せていたが

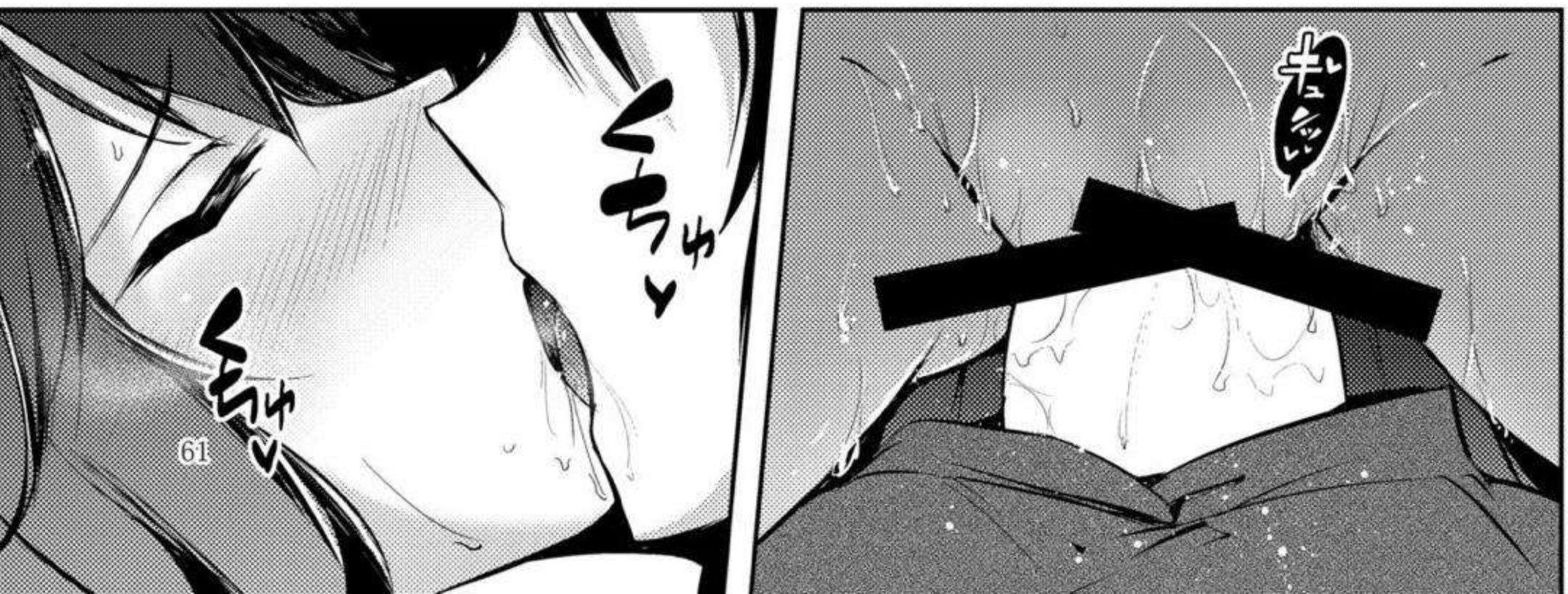
そろそろ橙の方が耐えきれなくなってきたようなので

身体を起こし橙の身体を腕の中へ抱き寄せる

お兄さん…♡ お兄さん…♡

もっとぎゅってお願いします…♡

ぎゅぅ…♥



抱擁とキスの安心感に包まれたのか
腰を押し付けるように快楽を、寵愛を、全てを受け入れようと身を任せてくる

逃さんとばかりに強く抱きしめながら膣内に欲望を吐き出す
糊のような粘り気を撒き散らしながら好き勝手暴れまわり
幼く小さい膣内はすぐに子宮の奥深くまで容赦なく汚されていく

ちゅぱ♡

[redacted]

ちゅぱ♡
行為が終わると
何も言わずとも
橙は愚息に舌を這わせ
欲望の残滓を掃除していく
ぺろ…
ちゅぱ♡
何度も調教してしまった
身ではあるが
無理してそこまで
しなくてもいいんだよと
気にかけてやると

大丈夫です…♡

クス…

私はお兄さんにご奉仕するのが好きなだけですから…♡

照れながら優しい顔でそう微笑まれた

奉仕中毒なんて言葉もあるのかなとそんな事を考えながら

シたくなったら何時でも言ってくださいね♡

小さな水音と愛情のある奉仕を堪能する事にした

睦言・参
ムツミゴトー
DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

三本木木

どうかしましたか？
紫様

……寒い

まぁ冬ですからねぇ
今日の外は大雪ですよ

紫様もそんな
肌蹴た服のままじゃ
お風邪を……

あら
そうなの

それじゃあ
ちょっと来なさい

ガバッ

うわわっ？

あっという間に
布団に引き込まれ
逃げられないよう
力強く抱きしめられる

ギュッ

彼女の温もりが詰まった
狭い空間と
そこに染みこんだ
女性の甘い香りが
頭をくらくらさせていく

することもないんだし――

どうせならたっぷり愛しあいましょう？

……いいんですか？

嫌？

――まさか

ギュッ…

んっ――

怠惰な生活を嫌う人間はいませんよ

ロンッ

ジュル…

チロ…

舌で口腔内を蹂躙しながら
紫の襦袢に手をかけ
ゆっくり肌蹴させていく

ん…♡

チュ…♡

ビクッ♡

布団の外から冷たい外気が
漏れてこないよう
ゆっくりと動きつつ——

うぁ…♡

ムニュ♡

ムニュ♡

ビクッ♡

ビクッ♡

顕になった
豊かな乳房を
好き放題堪能する

いやらしく
身体をくねらせる
彼女の皮膚を舌でなぞり

あっ♡

やっ♡

チュプ♡

頬、首筋、鎖骨、胸と
舌を滑らせ
最後に乳首を
思うまま吸い上げる

もう……

結局おっぱい
吸いたいだけ
なんだから……

モミ♡

モミ♡

チュパ♡

チュパ♡

ほら……
大好きなおっぱいで
シてあげるから
交代しましょ？

紫が顔に跨るように
上へ覆いかぶさり
いわゆるシックスナインの
体勢になる

ブリ
ブリ
ブリュ

紫の下着が眼前にくると
愚息が柔らかい感触に
包み込まれた

ビクッ

チュッ

チュプ

あらあら
随分元気だこと

そんなに
気持ちいい？

グイッ

プ……

チュ

チュパ

チュプ…♡

レロ…♡

お返しといわんばかりに
秘所に這わした
舌を動かす度

ビクッ♡

ビクッ♡

じゅるっ♡

じゅるる♡

ぴくぴくと
可愛らしく体が跳ね
小さな嬌声が
聞こえてくる

ビクビクッ♡

それに応えるよう
愚息へ柔らかい刺激が
襲い掛かり

んふ……♡
ほんとに元気ね

ドクッ

ドロドロ♡

フー♡

フー♡

すっごい
ドロドロ……♡

吐き出された欲望が
紫の胸や顔を
白く染めあげていった

紫の身体を
後ろから抱きしめ
ゆっくりと挿入する

布団を被って
繋がっているのもあり
冬の朝だというのに
お互いの身体は
じっとりと汗ばんでいた

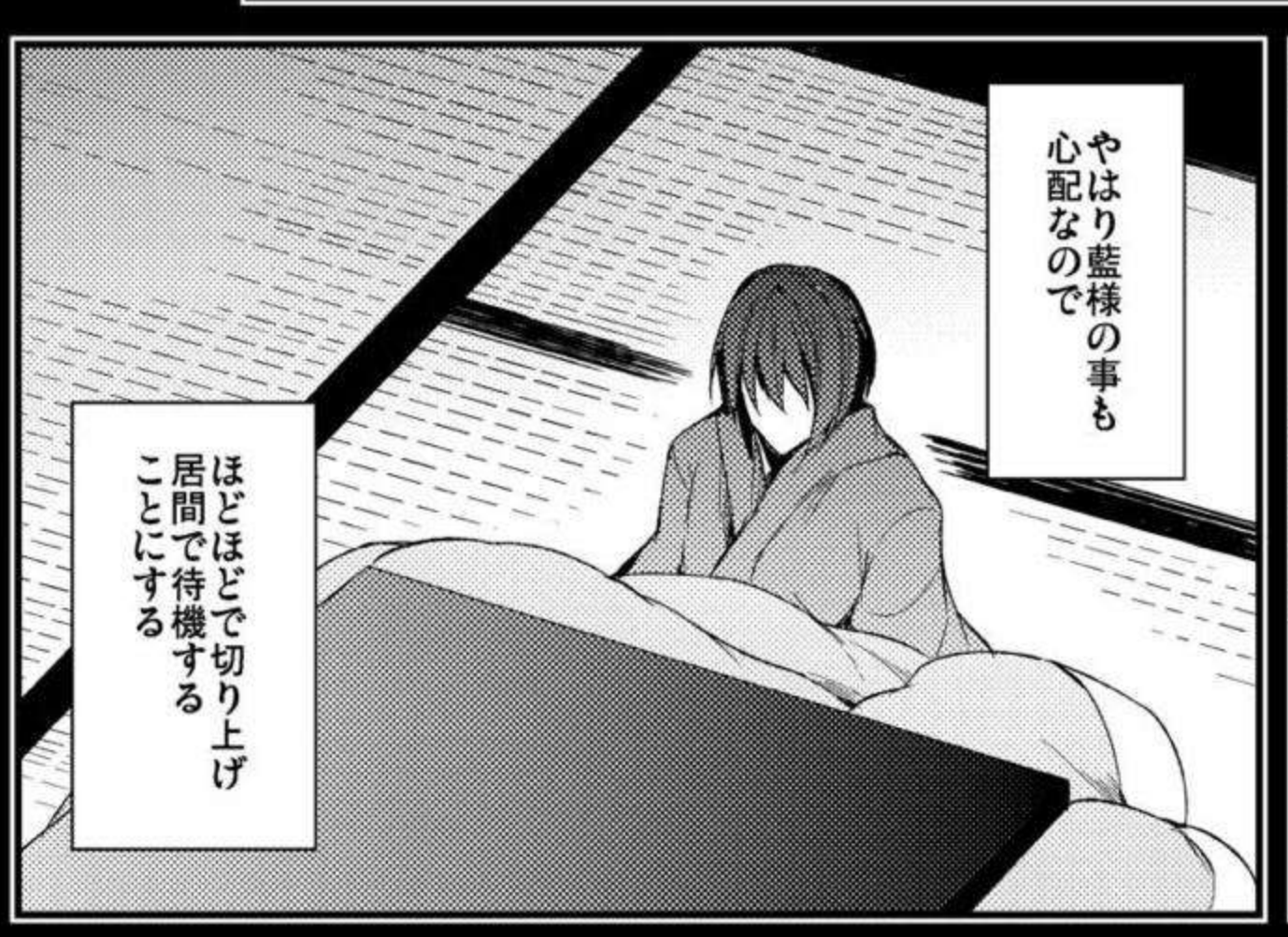
健気に快楽を
我慢する彼女を
存分に可愛がる

んぁ…♡
んっ♡
物足りなさそうな
彼女の唇を塞ぎ
あえてじっくり
ゆっくりねっとりと
時間をかけて腰を動かす
キュンッ♡
どうせ今日は
何もできないのだ
ならば存分に
恋人を可愛がり
楽しむとしよう

ドクン
ズッ
ズッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビエルルッ
不意に膣内が
愚息を締め付け
たまらず射精してしまう
キュンッ
キュンッ
キュンッ
体内に流し込まれる
精液に呼応するように
紫も絶頂を迎え
身体を震えさせる
ハーハッ
ハーハッ
フッ
ハーハッ
んぅ……

ね……
まだ足りないの……

もっと…
愛して……？



ギュー
どうした？
橙

ぶるっ
ぶる

……することないですー
こんな天気じゃお外に出ることもできませんしー
まぁそうだろうねぇ

ぷっ

藍様は無理矢理お仕事いっちゃったけど大丈夫だろうか――
スン
スン
……橙？

……えっちな
においがします

ギク

めざとい

……
紫様ばっかり
ずるいですー

おっとっと

言うが早いか
橙の手は着物に伸び
たどたどしい手つきで
愚息を露出させる

ズボッ

ビクッ

チラッ♡

ドキ♡
ドキ♡
ドキ♡

しばらく
紅潮した顔で見つめた後
おそるおそる
愚息に口をつけ

フッ♡

チュパ♡

グポ♡

フッ♡

チュポ♡

口いっぱいに
愚息を頬張りながら
強くむしゃぶりついてくる

上目遣いでこちらの様子を
不安そうに伺ってくるのは
初心で可愛らしいなぁと思うし

フッ

フッ

ぐぽ♥

ちゅぽ♥

ちゅぷ♥

小さな口と舌で
一生懸命
奉仕してくれる姿は
背徳感があって
とても興奮する

ちゅぷ♥

ちゅぽ♥

射精の瞬間
橙の口から愚息を引き抜き
顔に容赦なく精液をかけていく

ぷあっ♥

ビュルル

ひぁっ!?

ベタッ

んぇー……

ああ
かわいいなぁ

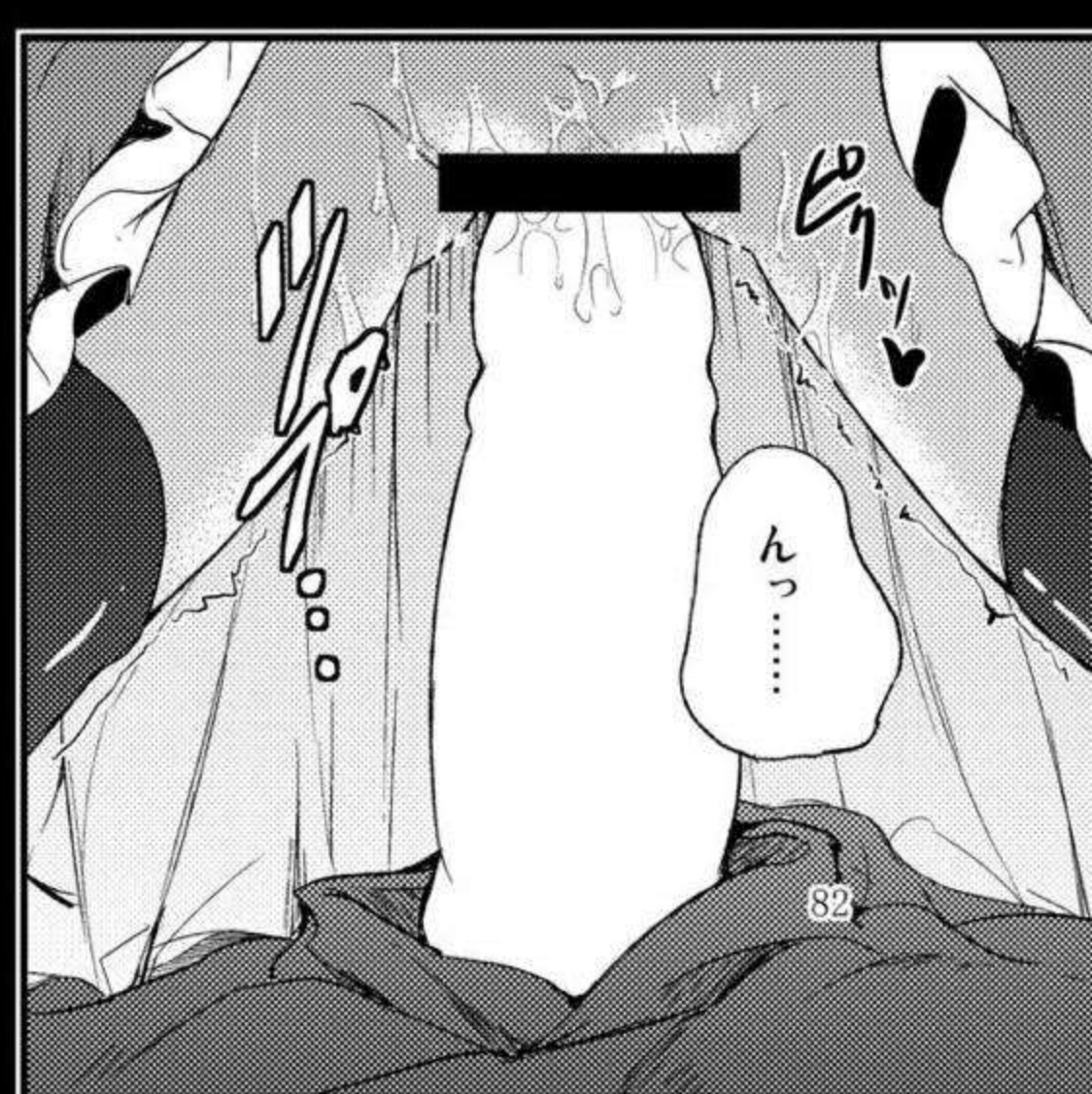
ドロドロ……

汚された顔を
見てると
嗜虐心に火がついて

もっと可愛がって
あげたくなる

ほら橙
足広げて

……はい



小柄な橙を抱きかかえるようにして幼い割れ目に愚息をあてがい挿入する

ヘロウ!

フーッ♥

ビクッ

フーッ♥

キュン♥

キュン♥

押し分けられた狭い膣内は異物を受け入れるように愚息へ絡みついてくる

ズブブ…

フーッ♥

キュン♥

フーッ♥

あ…♥

フーッ♥

ジュル…♥

チュパ…♥

ぷぁ…♥

フーッ♥

安心させるように軽いキスを落とすと尻尾が嬉しそうに揺れ動く

フリ♥

フリ♥

フリ♥

フーッ♥

フーッ♥

身体を預けてくる
橙の腰を掴み
上下に揺り動かす

快楽を味わうだけの
乱暴な動きだが
耳元で聞こえる
橙の吐息は色を増し

恍惚の表情が
手に取るように
分かる

ビクッ
ビクッ
ヤッ
あっ
ズル
ズル
ハーッ
ハーッ
キュン
キュン
ズッ
ズッ

回された細い腕が
背中を強く
締め付けてくると

橙の身体が
ビクンと大きく震える

だ
だ
ハッ
ハッ
キュン
ギュウ…

橙の絶頂を
押さえつけるように
身体を強く抱きしめ返し

ビュルルッ♥

ビュルッ

ビュルルッ

ギュウ…

小さな最奥を満たすよう
溢れんばかりの
精液を注ぎこんだ

……雪止まないですね

ゴオオオオ…

あの……

モジモジ♥

？

その……

……もう一回は

ダメ…ですか？

……さすがにそろそろ藍様が戻ってくるだろうし……

じゃ

じゃあ……

その後で……藍様と一緒にいっぱい愛してくださいね…？

ヒョオオオ…

うー寒っ

今年一番の大雪だなこりゃ

どうしてこう忙しい時に限って荒れるかね天気って奴は

おかえりなさいお疲れ様です

ヒュオオオオオ…

ただいまーっと

どうでしたか？仕事の方は

ギシッ

いやー駄目だ駄目だ

視界が真っ白でどうにもならんよ

ワシ

雪が弱まるまで動けんなーこりゃ

ワシ

ご苦労様です
お身体
冷やさないよう……

……ん
そうだなー

それじゃあ……

温めてもらうと
しようじゃないか

チュー♥

ん……

チュッ…

トン…

はーっ♥

はーっ♥

ミシュル…♥

いきなり
とても力強く
唇を合わせられ

そのまま
倒れこむ事も許されず
あっという間に
部屋の隅まで追いやられ

口内に侵入してきた
彼女の舌が
逃がさんとばかりに
自分の舌へと絡みつく

ガッ

チュッ♥

クチュ♥

チュッ♥

チュッ♥

アーッ♥

チュプ♥

クチュ♥

ジュル♥

ジュル♥

ジュル

ギュッ
ドクッ
!?
ギャア
・・・・・・・・
『とても冷えきった』
彼女の指が
熱を持ち始めた愚息を
優しく包み込み
あッ
ザワ
ザワ
ちょ
ちょ
待ッ
瞬時に全身へと
刺さるような
冷たさが走り抜ける
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
んー？
どうしたー？
情けない声
あげちゃってー
90

どうせまた私が冷たい思いをしてる間お楽しみだったんだろう？

これぐらいのお仕置きは我慢しろ

……ごめんなさい

ほらイく時は一緒に……な？

下着を脱がせ尻を突き出すような格好を取らせて愚息を秘所へと擦りつける

ビキ♥

ドキ♥

ドキ♥

藍の秘所は既に濡れ始めており挿入を待ち構えていた

腕を引っ張り
あてがった愚息を
一気に膣奥まで挿入する

ぐぷっ♥

ぐぷっ♥

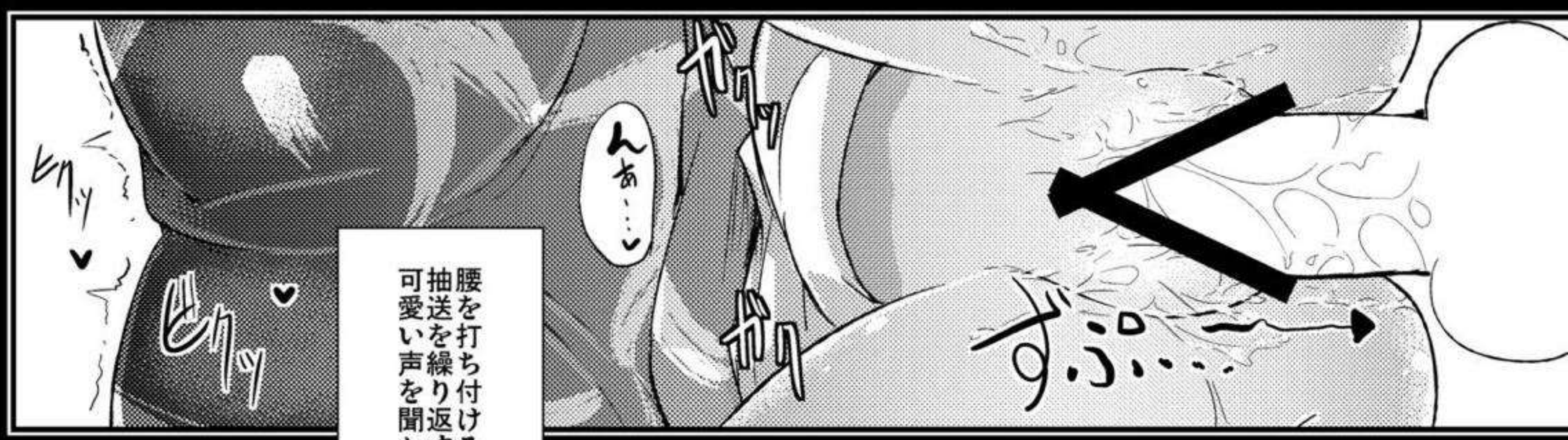
んぁ…♥

あ…♥

キュンッ♥

ズプッ…

幾分か冷えたおかげか
膣内の暖かさが
蕩けるような快感を
味わわせてくれる



腰を打ち付けるように
抽送を繰り返すと
可愛い声を聞かせてくれた

片足を持ち上げ
身体をさらに
密着させて
藍の口内を味わう

積極的に
舌を絡ませてきたので
こちらも乱暴気味に
腰を打ち付けてやる

抽送する度に膣内が震え
抱きしめた藍の身体が
ビクンと大きく跳ねる

ビュルッ♥
ビュッ♥
ビクッ♥
ビクッ♥
藍の絶頂に合わせ
愚息を締め付けてくる膣内に
大量の欲望を注ぎこむ
ビュルッ♥
ビュクッ♥
お互いが絶頂を迎えると
藍の象徴である尻尾が
身体と一緒に
力なくへたるのが見える

じゅぷ…♥
じゅぷ…♥
ズボ
ぬ
ぬ…♥
アーッ♥
アーッ♥
ふふ……
気持ちよかったか？
ズク♥
まだ外は大雪だ……
雪が止むまで……
三人でもっともっと……
たっぷり愛し合おうじゃないか……
終

睦言・肆

ムツミゴト

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

ジーウ
ジーウ
ジーウ
ジーウ
ジーウ
ジーウ
ジーウ
ジーウ
ジーウ
ジーウ
ジーウ
ジーウ
カラン…
うにゃあぁぁ……
ジーウ
ジーウ
ジーウ
ジーウ
ジーウ
ジーウ
ジーウ
ジーウ
ジーウ
ジーウ
ジーウ
ジーウ
暑いです……
死んじゃいます……

そんな大げさだなぁ

なんでお兄さんはそんな平然としてるんですか……

まぁ単純に外の世界の方が暑かったからね

地球温暖化とか

温室効果ガスとか

外の世界怖いです……

ああ……ひんやりして気持ちいいです……

私縁側と結婚する……

冬になったら離婚して炬燵と再婚するんだ……

ゴロ

ゴロ♡

魔性だなぁ

……

……こらー橙

気持ちがいいのはわかるが縁側に寝っ転がるんじゃない

ジーウ

ジーウ

ジーウ

揺れる尻尾に合わせ
捲れ上がったスカートから
健康的な色をした
細い太ももと白色の下着が
ちらちらと顔を覗かせる

ビクッ♡

それに誘われるようにして
橙の尻に手を伸ばし
撫でるように触れてやると
身体がピクンと跳ねる

さわ…♡

柔らかい肉付きの脚を
内股の部分を中心にこね回し
小さなお尻と
細い太ももの感触を堪能する

さすさす♡

ピクッ♡

スリスリ♡

しばらく撫で続けてやると身体が強張っていくのが伝わってくる
ピクッ
ピクッ
ピクッ
不安そうな瞳を向けてきたりとこういった未だに初心な感じが実に可愛らしい
そのまま後ろから覆いかぶさり
グッ
あっ
ムニュ
ムニュ
ん
あっ
頬にキスを落としてやりながら橙の身体を全身撫で回すように愛撫し始める

後ろから抱きしめたまま
一緒に縁側に横たわり

ピクッ

ギュッ

キュンッ

ポプッ

橙の固く閉じられた
太ももを押し分けるよう
下着の上から
小さいワレメに
愚息を擦り付ける

柔らかな太ももが
愚息を圧迫し
下着越しの刺激が
実に心地よい

橙の身体が
昂ぶるのを見計らい
下着を脱がし

ピク

ピク

ミシッ

アンチュ

縁側の縁に横たえさせ
濡れそぼった
綺麗な幼い秘裂を
眼前に晒させる

羞恥に顔を歪ませるが
秘所は待ちきれないかのように
ひくひくと震えていた

フッ

フッ

トロォ…

ツッ

橙に覆いかぶさるように
濡れそぼったワレメに
愚息をあてがい一気に貫く

あっ…♡

押し返されるような
膣肉の抵抗を無視し
無理矢理気味に
橙の最奥まで蹂躙していく

ヒサ

敏感になってるのか
挿入しただけで
軽く達してしまったようで
上半身をビクンとのけぞらせた

落ち着いた頃合いを見て
抽送を開始する

狭い膣内が押し分けられ
多少苦しそうだが
快楽の方が
勝っているようで

我慢と羞恥で
固く結ばれた口が
だんだん綻びを見せていく

じゅる♡

ちゅっ♡

小さな胸の突起を
舌で転がし
ちゅうちゅうと

はっ♡

あっ♡

赤子のように
吸い上げてやると
実に可愛らしい反応を
見せてくれる

汗と体液が交じり合い
腰を打ち付ける度
卑猥な水音を響かせた

激しい絶頂と共に
橙の最奥に
溢れんばかりの欲望が
容赦なく注ぎ込まれていく

飲み込みきれなかった
精液がごぷりと溢れ

愚息を引き抜くと
名残惜しそうに
縁側へと零れ落ちていった

橙の膣内にたっぷり出した後——

チュッ

チュッ

ズチュ

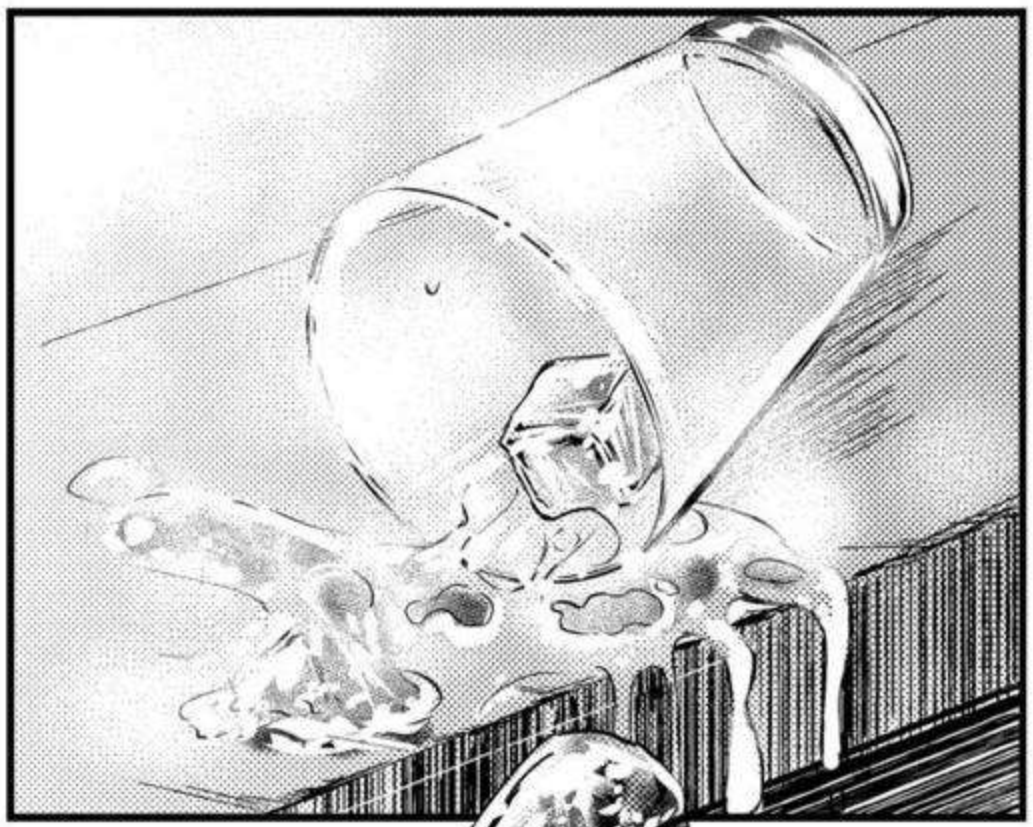
チュル

チュパ

チュル…

ブプ…

もうよくわからない体液まみれになりながらも愚息についた精液を橙の口で掃除してもらう



あー暑い……
毎年この季節は辛いわねぇ……

まぁ季節は流石にどうしようも……

まぁ夏もずっと続くというわけではないですし

夏がずっと……その手があったわね

？

らーん

ココらへんの『夏度』を幽々子のトコにでも届けてやりなさい

控えめに言って怒られるのでは？

はーい呼びましたか紫様

……って

なんて格好なさってるんですか！

だって暑いんだものー

はしたないから今スグやめてくださいっ

橙が真似したらどうするんですかっ

パキッ

もううるさいわねー

……えっ!?

ポンッ♥

やっちょっ…!

ゆ、紫様ぁ…!

あなたも少し涼みなさいな

それにこの方が彼も喜んでくれるわよ?

えっ

あっはい確かにとても眼福ではありますが

もじ

もじ

で、ですが これは……

あまりにも……

その……

もうしょうがないわねぇ

……そうだ

ス…ッ…

……ね

このシたいでしょう？

ヒラ

ポヨン

それとも嫌かしら……？
スス…
いえ……そんなことは……
スッ
それじゃあ何も問題ないわね
あなたがこの格好でシたいって望んだんだもの
ムニュ
……ね？

都合よく変態性をでっち上げられてしまった気がするが

んっ♡

何かしら苦言を呈しようとすると唇で言葉を塞がれた

あん♡

あっ♡

紫を縁側に押し倒し豊かな双房をこれでもかと乱暴に揉みしだく

掴んだ手から伝わる柔らかな感触が興奮と幸福感をもたらしてくれた

……都合よく利用されたのだからこちらもお望み通り楽しませてもらおうか

ピクッ♡

ビクッ♡

ムニュ♡

モミュ♡

ムニュ♡

固くなり始めた乳首を
丹念に舌で転がし
吸い上げると
可愛い声が漏れ始める

ジュル…♥

チュパ♥

チュパ♥

やぁ…♥

モミ♥

モミ♥

舌の刺激に反応し
身体がビクンと跳ねさせ
目を楽しませてくれた

片方の胸を
好き放題揉みしだき
もう片方の胸に
顔を埋め感触を楽しんでると

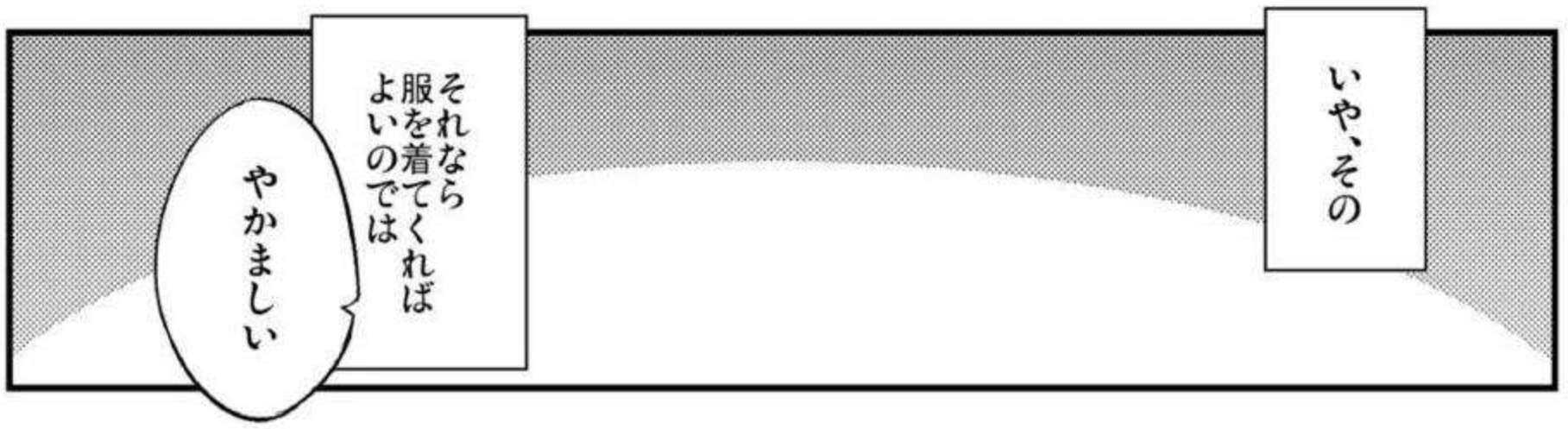
ボフッ♥

フッ…

ドキ

お前の望みを聞いた結果なら

この格好をしてる以上シてあげないといけないよなぁ？



甘い香りに脳が浸食され
限界に達するのに
そう時間はかからなかった

ドロオ…♥

堪え切れなかった欲望が
藍の顔や髪を
白く染め上げる

藍は顔についた精子を
愛おしそうに
一つ一つ丁寧に掬い
口へと運んで行く

すっごい出たな……

パーロ…♡

量もだが……なんだか濃さもいつもより……

それだけ気持ちよくなってくれたってことよ

ギュー♡

……よっぽど気に入ったんでしょうこの格好

……ほら次は私達にも、ね？

布団に寝かせ
二人の足を開かせると
綺麗なワレメから
物欲しそうに愛液を垂らし
ひくつかせる光景が広がる

せっかくの良い眺めなので
しばらく眺めたり
舐め回したり
イジったりしていたが

二人共どうやら
待ちきれない様子なので
ご要望に
お答えすることにしよう

後ろから藍の腰を掴み
愚息を挿入する

藍も橙と同じで
獣の性か
この体勢で突かれる事が
好きらしい

んあぁ…♥

膣内は溶けそうなほど
熱くなっており
待ち望んだ物を
飲み込まんとばかりに
締め付けてきた

やぁ…♥

優しく胸を揉みながら
乱暴に突いてやると
ビクビクと身体が震え
快楽の喘ぎ声を聞かせてくれた

一旦藍から愚息を引き抜き今度は寂しそうな表情を見せている紫の秘所に擦り付ける

ピクッ

ズル…♥

キュン

キュン

紫の足を掴みあてがった愚息で秘裂を一気に貫く

ズブブ…♥

あん…♥

ピクッ

ピクッ

藍と同様膣内はきつく締まり最奥まで導こうと蠢いてきた

ズボッ♥

ズボッ

弱いところを重点的に攻めてやるとトロンとした表情を浮かべ快楽に溶けていくのが伝わってくる

二人の身体を
密着させるように寝かせ
並んだ秘裂を交互に突く

ビクッ

んあっ

ズボッ

ヤっ

ビクッ

膣内の感触の違いを
楽しみながら
引き抜き、再び挿入する

ズボッ

ズボッ

ズボッ

ちゅる…

ちゅぱ…

気づけば二人も
昂ぶってきたのか

ドキドキ

膣内だけじゃ物足りず
お互いの口内までをも
貪り合っているようだった

ズッ
ズッ

愛液が混ざり合い
腰を打ち付ける度に
卑猥な水音を響かせる

ズチュッ♥
グチュッ♥
あっ♥
んっ♥
チュッ♥
チュッ♥

ズッ♥
ズッ♥
ズチュッ♥

二人が
絶頂を迎えると同時に
膣内へ大量の欲望を
注ぎ込んだ

ズチュッ♥
ズチュッ♥

二人は流し込まれる
精液の迸りに呼応するよう
身を震わせ
膣奥で精液を受け止める快楽を
味わっているように見えた

ドクッ

ドクッ

ドクッ

全員暑さや淫匂、快楽の余韻等々で動くのすら億劫なようだった

体中もはや誰のものかわからない様々な体液にまみれた凄惨な姿になっている

……これ今すごい匂いでしょうね

起きたら水浴びしないと……

……しばらくは暑い日が続きそうだし――

毎日この格好も悪くないかしらね？

愛したいのではなく、
愛されたいのではなく、
愛しあいたいのだ。

昏れ泥む空が広がる夕方の縁側にて――
あっ♥
やっ♥
んうっ♥
床に垂れ落ちた愛液が水溜りになるのを眺めながら
壁に手をつかせ並ばせた形の良い尻へ快楽を貪るように腰を打ち付けていた
ビクッ♥
ビクッ♥
ビクッ♥
ビクンッ♥
パンッ
パンッ
ズリュッ
ズリュッ

二人を征服するかのように覆い被さり

身体の柔らかさを全身で味わいながら彼女たちの膣内へ欲望を吐き出す

ドピュッ

ドピュッ

ドピュッ

彼女たちを独占する欲が満たされるのを感じながらひと段落つこうとすると

…あら？疲れちゃった？

それじゃあ……

どうする？

休憩（おっぱい）する？

とても魅力的な回復の提案をされてしまった

柔らかな
四つの豊満な果実を
味わいながら

むにゅ

ぎゅむっ

むにゅ

ちゅぷ

ちゅぷ

むに

骨抜きにされそうな
甘い甘い待遇を受け
幸せなひと時を過ごす

なお
余計疲れたのは
言うまでもない

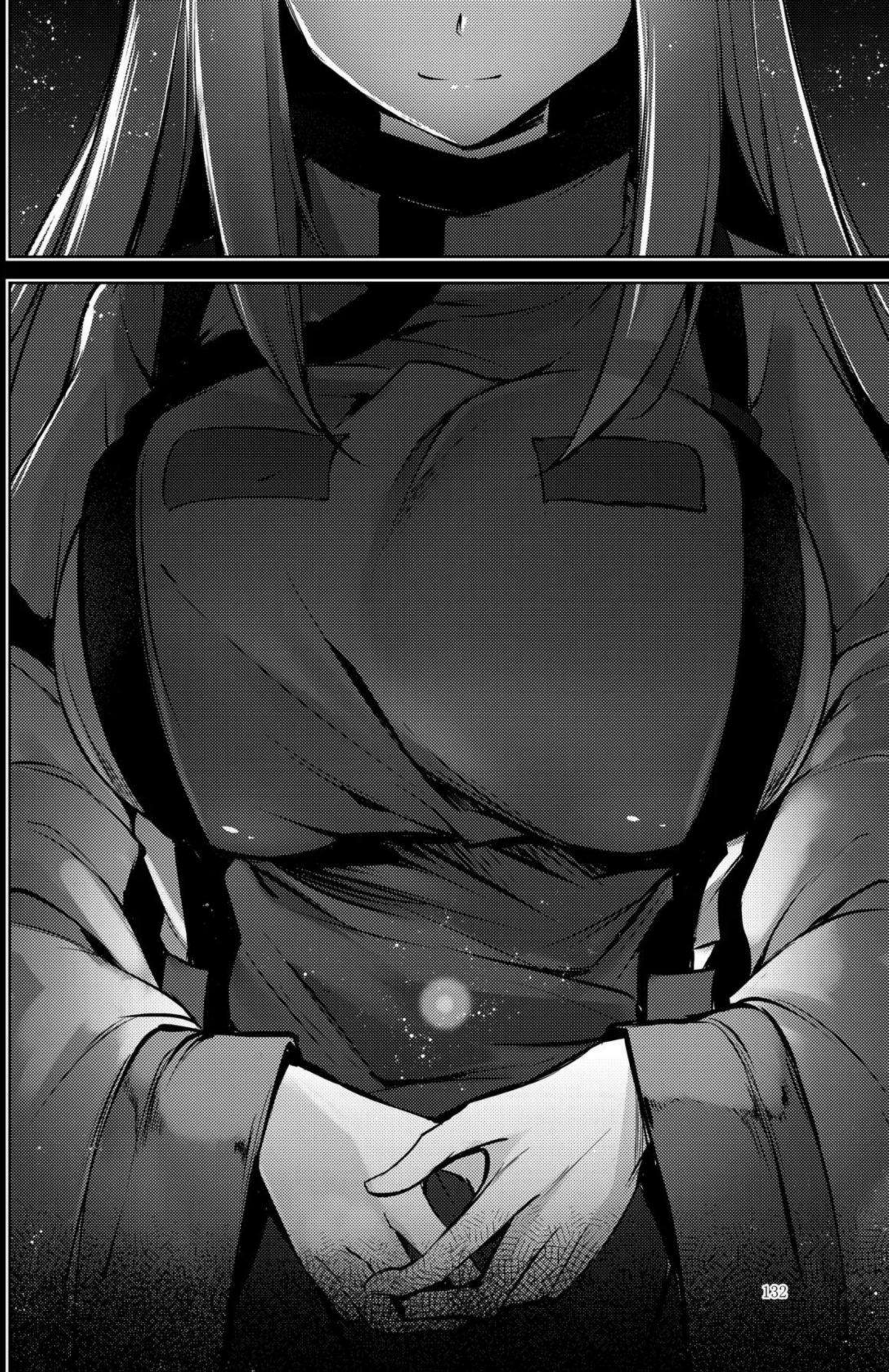
ぷはぁ

ぷぷぷ

愛情確認の余韻を楽しむ睦言の最中――

あのね……

……素敵なお祝いの事なんだけど


132

『何人』欲しいかしら？

睦言 総集編

2018年 5月6日 初版発行
第十五回博麗神社例大祭

発行・制作

みどりねこ

midori0014@gmail.com

みどり
http://www.pixiv.net/member.php?id=76139

印刷

栄光印刷

題字

やま先生

謝辞

ZUN(上海アリス幻樂団)

碧猫

みどりねこ